	投稿者誠也としひら	タイトル ジュースのおばさん	評価者 一般審査員A	点数 各項目20 怖さ 19	鋭さ	新しさ 17	ユーモアさ 14	意外さ 17	合計 85	書評 書評 書評 書評 おりが上手く、誤字が気になっても、先へ先へと読み進みたくなる。色々とここでは書けないセンシティブな部分もあるのだが、そういった部分を
										なんとなくほのめかすにとどめているところも、上手いなあと感じた。結局、一番怖いのは人なのだろう。語り手である「俺」がジュースのおばさんについて、冷静に分析しているのがいい。最後にはおばさんへの同情もしていて、確かに人は怖いが、その人について色々と想像したり考えてみるとわかることもあると思った。そうはいってもやはり、狂ってしまった人間は、怖い。
455	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員B	14	14	12	12	12		この話を読んで実際にありそうな話だなと思いました。怖い話ではあるんですが悲しい側面を持ち合わせていてどこかしんみりとしてしまう感じでした。最後のトウヤと書かれたボールが残されてただけでその子が原因だと思い込むのが強引だなと思いました。普通は軽トラの運転手に矛先が向くはずなんですがそこの違和感をもう少し補足や流れで修正したらもっと良くなると思います。
155	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員C	17	15	15	15	18		起承転結がしっかりしており、変な疑問点も残らず、とても読みやすい作品でした。怖さと物悲しさが混在しているのもとても良かった。おばさんの化粧の様子が、異常性を秘めていて素晴らしい設定だと思いました。差別的発言と捉えないで欲しいのですが、おばさんが韓国人というのも非日常的な感じがしてよかったです。かぎこっこの前にAやBといった、誰が話しているセリフかの表記がありましたが、この方の高いレベルの表現力があ
55	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員D	17	19	16	17	18		ているセリフかの表記がありましたが、この方の高いレベルの表現力があれば、文章で判別がつくようにすることができ、不要ではないかと思います。おばさんへの思いやりの言葉で締めくくられているのが優しい気持ちになれて心地よかったです。 子どもの頃地元にいた名物おばちゃんのようなちょっと変わった人かと思いきや、恐ろしいことを腹に抱えて子どもたちと接していたって怖すぎまで、…けれど悲しい過去があったり怪異ではないけれど、怖い話でした。子ど
55	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員E	13	12	12	14	12	63	…けれど悲しい過去があったり怪異ではないけれど、怖い話でした。子どもの軽はずみな考えから危ない目に遭い、思春期になってそれを思い出してやり返してやろうという発想もありがちでとてもいい展開だったと思います。途中あれこれ考察する楽しみもあり、最後まで楽しませていただきした。 子供視点では無邪気な楽しみとして描かれている一方で、物語の進行とと
										に事件の真相が徐々に明かされることで、大人になった読者には深い共感ともに強い怖さをもたらします。物語全体を通して、愛情や喪失が人の心理 狂わせる危うさが繊細に描かれ、誰にでも起こりうる悲劇として現実感を増しています。単なる恐怖譚にとどまらず、心理描写や人間ドラマの厚みがしっかりと存在し、子供の無邪気な体験、そこから生まれる恐怖、そして大人の視点での理解と共感が絶妙に重ねられています。そのため、読後に「単なる恐怖だけでなく、胸に刺さる切なさや哀愁も同時に感じられ、物語
55	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員F	17	16	17	17	16		の余韻が長く残る、非常に完成度の高い作品となっています。 子供の頃の苦い思い出がトラウマになったりする人も結構いるのかもしれない。私の子供の頃にも、これとは全然違う形でショックな出来事があったから。それはそうと話を本題に戻そう。いつも優しく子供の自分達に笑いながら話しかけてきて、慕っていたジュース販売員のおばさんが、ある突然、首を絞めてきて殺されそうになったりしたら、それは怖いだろう。
										だけど、中学三年生まで成長して、立派な体格になったから仕返しをして、こうと考えるのは勇気はあるけれど、非常に危ない。思っていたような感じではなく、弱々しく謝られ、思わず『トウヤ』という名前の人物の具体的な情報を漏らしてしまった事で思わぬ被害者が出てしまう。おばさんは自分の子供の事故死のきっかけとなったボールの持ち主であろう『トウヤ』を捜し出して復讐しようとずっと考えていた。そんなおばさんは怖いけれ
55	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員G	16	20	20	17	12	85	ど、悲しい人だとも思う。文面で誤字がやや目についてしまったので投稿される前に見直しを。 怪談というよりは、ミステリーに近いお話でした。とてもいい作品だと思います。文章は丁寧で、テンポも良く、構成もしっかりしているのでどん。 ん読み進める事ができました。正直何も付け足すことはないように思えます。それでも強いて言うならば、会話の部分をもう少し文章ぽく書いてみる
										と良いような。ただ、昔の2chにあった怪談の雰囲気もありつつなので、そこをセリフっぽくなくしてしまうと逆に良さが減ってしまう可能性もあるので、あくまで実験的な意見として下さい。怪談のコンテストというとオルトの傾向が強くなるので、人怖の物語は採点が難しいところがあります。 怖かったかどうかだけで判断できないので。ミステリーも大きく言ってしまば人怖話の部類に入るところもあるとすると、これはまさしく人怖の怪
155	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員H	12	13	14	11	13		談として完成していると思いました。 心霊譚ではなく人怖ですね。怖さですが、おばさんの目的が良くないものだと言う事が容易に想像出来る分、いつ主人公達の身に何か起こるのかや、おばさんの言動がおかしくなる様は怖かったです。ただ、多少霊的な要素入れて欲しかったので、この点数にしています。鋭さ、過剰な説明が無く記み易いですが、もう少し緩急をつけた文章にした方が良いように思います。
										緊迫感が薄いと言うか。新しさ、最後におばさんの目的が我が子の為の復讐だと分かるわけですが、私は序盤、主人公達子どもを狙っている妖?のような者かと考えていて、「トウヤ」という子を探しているのも攫うつもりなのかと思ってました。母親の復讐の物語。怪異とは少し違う気はしますが、新しい表現だとは思います。ユーモアさ、主人公含む4人組の他愛もないやり取りと、おばさんとの交流。そこから一葉する思り、面白かったでは、カースは、カースは、カースによって、カースとの表演。そこから一葉でありませる。
155	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員Ⅰ	13	12	12	10	11		す。意外さ、おばさんの正体、ジュースやお菓子を売り歩く目的、でしょか。実は幽霊だった、とか化物だった、では無くあくまでも生きている人間であり、最終的に我が子の復讐を遂げるという結末です。 ジュースを安く売るおばさんに子供たちが懐くのが早すぎて恐怖。小学生がしらない大人に1日でそんなに懐くだろうか?確証もないのに、ただ名が同じ子供の情報を話してしまう。この子たちの危機感のなさが1番杯
155	誠也 としひら	ジュースのおばさん	一般審査員J 合計	153			12			かったです。おばさんの恨みも少しも癒えることはなかった。執着がすぎと思いました。 切ないヒトコワだった。また悪意のなく無関心で、Cは、無関係の人を巻き込んでしまったこともヒトコワの一つだと思う。 悪意のない悪意というのが怖いものだと改めて気付かされた。
9 3	投稿者 あきら	タイトル ひとしくやって来る。	評価者 一般審査員A	怖さ 16	鋭さ 15	新しさ 15	ユーモアさ 15	意外さ 15		書評 電話ボックスを撤去した業者は強者かも。謎の男と電話ボックスは関係があるのだろうか。たまたま謎の男がそこにいただけなのか、それとも電話ボックスに憑いてる幽霊なのか。撤去されても出てくるってことは、前者の可能性もあるかも? 謝れば許してくれないかなあ。まあ、無理っぽいな、結構理不尽な幽霊だし。それはともかく、結構このコンテストではあ
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員B	15	13	14	12	13		りふれた話で、特に印象には残らなかった。一か月後には忘れていると予想。前に三角公園が出てくる短編で同じようなコメントをした記憶がある。三角公園の呪いかもしれない。あれ? 俺の横になんか男が まず悪い気が集まりやすい三角公園の公衆電話から始まって死神の話になっていくんですが死にかけてる人に近づくというより、なんかきっかけをつくる為に近寄るイメージでしたね。自殺や事故死をする結末の人に見
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員C	17	17	15	15	15	79	えるのかどうかはわかりませんが話の中ではそうなる人ばかりなのでやっぱり悪いもののような気がしました。 恐怖が完結せず継続する、というスタイルが怖かったです。10年経ってからヒロさんが亡くなるくだりに不自然さがなく、非常によく練られた作品だと思いました。電話ボックスという特にスマートフォンが普及した現代
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員D	18	18	19	17	18		は異質な空間を、うまく恐怖につなげた発想が素晴らしいと思います。また、電話ボックスの男の「ひとしく」というセリフが繰り返されるのも、恐怖心を煽られました。死神という設定は珍しくはありませんが、扉が開いている隙間から覗いてくるのは恐ろしい。男に魅入られた登場人物たちの恐怖が容易に想像できます。わたしも彼に目をつけられないよう、日々はえて過ごすようになりそうです。 典型的な不条理な怪談。なぜ、とか動機は、とか一切不要。避けることが
ر د		・こし、ドゥて来る。	/JX 奋耸員D	18	18	19	17	18		きない展開かつ、逃れる術も一切ない絶望的な状況でとても厭な話でした。初めはしょうもない出来事だったのにじわじわ追い詰められていく心理や、なぜ自分がこんな目に遭うのかという悔しさや八つ当たりのような持ちが伝わってきてめちゃめちゃ怖かった…電話ボックスの使い方が今までにない発想だったのでとても面白かったです。少し不思議なタイトルだる思っていましたが、こういうことかと…最後まで読んで納得。新しい都市
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員E	17	15	15	12	14	73	伝説にもなり得そうな展開がとても尖っててよかったです。 日常の風景である公園と電話ボックスを舞台に、死の予感として立ち現れる男の恐怖を描いた怪談です。ヒロや仲間たちが体験する不可解な現象や、写真・動画に写る異様な存在は、読者にも強い緊張感を伝え、思わず窓や扉を確認したくなるほどの臨場感があります。幽霊譚にとどまらず、死や近けられない運命の恐怖が巧みに絡められ、日常の延長に潜む得体の知れな
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員F	18	17	17	18	17	87	い不安を突きつけます。読後は、身近な空間に潜む異界の存在を意識せずはいられず、恐怖と戦慄が長く心に残る完成度の高い怪談でした。 全ての人々にひとしくやって来るもの一死。それは確かにそうだし、抗えないものだ。肝試し感覚で覗き込んだ電話ボックスに見えたもの…。主さんと最年少の堀田と最年長の西さんの三人が男の姿を見たけれど、最年長の西さんにだけは見え方が違った。目を見開いて満面の笑みを浮かべた喪
_										服姿のガイコツのように痩せた男。それは、主さんが言うように『死神』なのかもしれない。それは、普段は見えないだけで、ふとしたきっかけで、神のいる世界とのチャンネルがあったら私達にも見えてしまうものなのだろうか…。でも、死神らしきその男を視認してしまったことでそれに影響されて自ら死に近づくのは何か違うような気もするし。自分が見えるようになってしまったらやっぱり怖いだろうな。
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員G	20	20	10	15	15		伝潘する類のお話かと思いきや、お話の根本としては死は等しくやってく という真っ当なお話でした。やっぱり心霊スポットではちょけちゃいけま せんね、当たり前ですが。お話のテンポもとても良くて読みやすかったで す。男が笑っていたというのがまたとても良い。個人的にそこが高評価ポー ントになりました。笑顔というのは時として怖さを与える重要な表現にな ります。その笑顔の表現を出すタイミングがばっちりすぎて、審査する側の
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員H	10	11	10	10	10		してはなんだか楽しくなってしまいました。笑っていたという簡易な表現から、満面の笑み、歯をむき出しで、と追加される些細な表情の描写もよりアルにイメージ出来て良かったです。 怖さ、一定の怖さは担保されているとは思いますが、色んな要素を盛り込み過ぎてかえって怖さが半減しています。鋭さ、主人公達に怪異が徐々に迫ってくる辺りに鋭さを感じます。ただ終盤の展開にはそれが感じられな
93	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員Ⅰ	13	12	13	12	12		かった為この評価となりました。新しさ、電話ボックスと怪異。定番中の 定番ですね。中にいる謎の男、という点では新しさも感じますが。ユーモ ア、電話ボックスの男に振り回される主人公達を俯瞰的に見ると、可笑しる も感じます。意外さ、最後の主人公の考察、ですかね。あの男=死の予感。 ただ、展開としては唐突で無理がある気もします。 ひとしくやってくるものは死ということなんでしょうか。そいつが付きま
	あきら	ひとしくやって来る。	一般審査員J	13			12			とうから、みんな死んだのであって、死が近いから現れたのではないのでないかと思いました。だってその男が現れなければ、事故を起こしたり自殺をする理由がないから。なので最後のほうの解釈は間違っていると思います 死神のような謎の話で、文章のリズム感がとても良かった。 一気にくるのではなく、徐々に主人公の方に来るという話は、とてもよ
lo 94	投稿者 こっぺぱん	タイトル 居留守	合計 評価者 一般審査員A	156 怖さ 15	鋭さ	新しさ	ユーモアさ	141 意 外さ 15	732 合計 77	かった。 書評 ワイヤレスイヤホンくらいだったらポスト投函でしょ、っていうのはまず 気づけよw まあ、普通の自業自得の話ですね。居留守はよくないよ。居能
94	こっぺぱん	居留守	一般審査員B	13	13	15	12	11		守は。居留守使っていいのは、NOKとか、宗教勧誘とか、怪しい光回線の営業とか、そういうのにだけです。宅配や郵便に対して遊びで居留守はマでよくないね。ちょっと切り口が新しかったかな。それ以外は特に見るべきところはなかった。あと、描写が細かいのはいいのだが、話があまり展開していないように感じた。 配達員の人が日頃の苛立ちを乗せて怪談にしたんじゃないかと思ってしま
	こっぺぱん	居留守	一般審査員C	13						う話でした。確かに約束の時間に不在だとなんでだよと思いますがヒトを 呪うまでになるのかなと考えてしまいます。些細なことがきっかけで恨み 変わることがあるように今の配達料金が安すぎる現状がそうさせているの かも知れませんね。 いまだに永島さんの恐怖が続いているという後味の悪さ、なんとも言えま せん。この配達員の方は、永島さんの元だけ訪れているわけではないと思
_										いました。きっと不在票を常習的にもらう人々を罰するため、何箇所も同時に訪問しているのではないでしょうか。想像すると恐怖が増幅します。の状況からどうやったら抜け出せるのか、いつ救われるのかが全く見えてこず、いたたまれない気持ちになるのも作者の計算かと思うと、よくできた。 作品ということを再認識します。語彙も豊富で単語から臨場感が伝わっていて良かったです。心を入れ替えた永島さんが救われますように。
	こっぺぱん	居留守居留守	一般審査員D	16			18	16		現代らしいシチュエーションの怪談でとても興味深かったです。この主人がそこそこダメな人で、同情の余地があまりないところからスタートしたもあり、自業自得では?と思ってしまう部分もありました。唯一登場する友人も怪しく見えるような、伏線がちらほら張ってあったもののあまり回収されず終わってしまったので鋭さはやや低めです。 日常に潜む異常を巧みに描いた現代怪談です。主人公・永島和真の平凡なな
										活と、夜ごと忍び寄る影との対比が緊張感を生み、読者を恐怖の世界に引き込みます。ネット通販や不在票といった身近な題材を用い、現代ならでのリアルな恐怖を演出しています。心理描写も丁寧で、些細な行動が怪異変わる過程は見事です。ただ、影や冷気の描写がやや長く、恐怖の切れ味が弱まる場面もありますが、日常の中に潜む不気味さを印象付ける作品でした。
94	こっぺぱん	居留守	一般審査員F	18	16	18	15	16	83	全体に重苦しく、後味も悪い印象のお話でした。まあ、和真が死の一歩手前までいってしまった事は、ある意味自業自得と言うべきでしょうか。再配達の問題は現実大きな社会問題として取り沙汰されていますが、配達員にとっては本当に大変だろうし、困る事案だと思う。急用等で荷物が受け取れない場合は仕方がないと思うけれど、わかっていて出ない、居留守を使うというのは私には理解出来ない。配達員からしてみても明らかに居留
94	こっぺぱん	居留守	一般審査員G	9	10	18	18	9		守だとわかったら怒りを通り越して憎しみを感じるかもしれない。"居留守の怪異、というネット怪談が出てきますが、和真はまさにその怪異に呑み込まれたのでしょうね。怖さ、新しさは非常に高かったと思います。 昨今の再配達問題から着想を得たと思われるお話ですね。中には本当に作中の彼のように、意図して配達員に嫌がらせのようなことをする人も居るのでしょう。作中の彼は嫌がらせとも思っていないようで余計たちが悪
										かったですが…。でも、人の念というのはどんなに小さくても馬鹿にできないと私は考えているので、こんな風にとんでもない仕返しをくらうよう。 真似はしないにこしたことはないですね。お話を読んで改めて自分の生活に気をつけようと思わせるという点は新しくて良かったと思いました。一つ気になったのは、表現方法が少しぼやけてしまっていて、怖そうな雰囲は伝わるんですが、肝が冷えるほどではないというふうに終わってしまっ
94	こっぺぱん	居留守	一般審査員H	11	12	12	10	13	58	たなと感じました。一番伝えたい怪異の姿(表現)は空間の歪みなのか、 影なのか、配達員の人型なのか、表現がありすぎてもイメージがしにくく なってしまいます。どれか一つに絞っても良かったかもしれません。 かなり評価に迷いました。世界観が独特なので、結構好き嫌い分かれるといます。怖さ、主人公の悪癖が事故死した配達員を呼び寄せる。その過程で 丁寧に書かれていて、確かに怖さはあるんですが、私の中の怪奇、怖さとし
										違うように感じたためこの点数にしています。鋭さ、じわじわと容赦なく、り来る怪異の中に出ていると思います。ただ、もう少しシンプルでも良かた気はします。新しさ、居留守、不在票、事故死した配達員がやって来る、今までなかった表現方法だと思います。ユーモアさ、ここはどこに見い出ば良いのやら分かりませんでした。強いて言うなら、主人公の浅はかさが招いた怪異、ですかね。意外さ、主人公が配達員に狙われ続け、命を落と
94	こっぺぱん	居留守	一般審査員Ⅰ	14	12	13	12	11		かけたのに、何故か引っ越そうともしない、誰かの助力を乞う訳でも無し。で、ただただ夜の怪異をやり過ごす終わり方です。 コロナ以降ネット通販で買い物する人も事も増えましたよね。以前、大手通販会社の委託先の会社でバックオフィスで働いていたことがありました。コロナのころにはその会社にはいなかったのですが、当時の同僚が働いていたので話を聞いたら、出店の申し込みが増えてすごく忙しいと言っ
.94	こっぺぱん	居留守	一般審査員J	17	18	18	14	18		ていました。出店するところが増えるということは、客も、荷物も増えるから配達する人の仕事も増える。すごく現実的な話で、ありそうな話で怖かったです。今でもなかなか荷物が受け取れないときがありますが、置き耐反対派なので、申し訳ないなとは思うのですが、配達に関してもっと選択を増やしてほしいなAmazonとおもいました(笑)現代社会ならではの話で、最近は、置き配などが一般的になっているが、
	投稿者	タイトル	合計	145 怖さ	139 鋭さ			137 意外さ	718 合計	し前は、対面が当たり前だったと思う。 一方で、自分で頼んだにも関わらず、運ばれてくるのが当たり前で、なんとも思わないような無責任さと無関心が招いた怖い話だと思う。 配送事業者へのリスペクトを失わないようにしたいと改めて思った。 書評
No -76	投稿者 ななめごはん。	タイトル inconnu	評価者 一般審査員A	怖さ 16						面白すぎ。哲学あり、ホラーあり、ユーモアあり、色々な要素がぎっしりのつまっている。哲学とか好きな私としては、本当に面白かった。「人が人を認識するとはどういうことか」など、色々と考えさせられる。ただ、あまりにも面白さが優先になっていて、怖さが感じられない。途中で保條が言ってた死神云々の話はもう少し上手く活かせば、怖さも出たかもしれない。まあ、でも、最後の一言が全て。結局すべては、「空」なのかもしれま
76	ななめごはん。	inconnu	一般審査員B	13	10	12	10	12		せんね。
76	ななめごはん。	inconnu	一般審査員C	15	15	15	15	15		ました。いらない部分を削って、考察検証パートを深掘りしたら良くなる。 思います。 inconnuと言うのは一般的に知られている言葉なんでしょうか。お恥ずかしいですが、わたしはわからず調べてしまいました。意味がわかると、最後まで作品を読んだあとに「なるほど」と合点がいきました。設定は目新しくありませんが、文章のうまさに引き込まれて、澱みなく読み進めてしまりました。主人公が見た「保條」とは、いったい誰だったのか・・・想像の
76	ななめごはん。	inconnu	一般審査員D	14	12	12	14	11		ました。主人公が見た「保條」とは、いったい誰だったのか・・・想像の産物?、それとも死神?主人公は何かを悟ったのでしょうか。考えるだに不思議さは深まるばかりです。あくまでも好みだと思いますが、最初の二次はなくてもよかったかな、と思います。 タイトル、パンドラの箱の話、本編がバラバラで「それっぽい」雰囲気を出したいのかもしれませんが何をしたいのか理解できません。本人たちにとっては深刻でとても不気味な状況だと思いますが、感情移入ができない
76	ななめごはん。	inconnu	一般審査員E	15	15	17	18	16	81	とっては深刻でとても不気味な状況だと思いますが、感情移入ができないうちに内容がどんどん進んでいくので怖さを感じることができませんでした。様々な要素が入ってきてしまうので没入感を感じにくくなっているように思います。 保條が「秋山という人物が突然消えた」という奇妙な体験を語るところから始まる。最初は単なる妄想かと思わせつつ、話が進むにつれて、私たち、当たり前だと思っている世界や人の存在そのものが、実は移ろいやすく不
7°	<i>trum</i>	incone								当たり前だと思っている世界や人の存在そのものが、実は移ろいやすく不確かであるかもしれないという恐怖に引き込まれる。般若心経の引用が哲学的な奥行きを与え、現実と幻の境界を揺さぶる。最後に、保條も悟りを開き消えてしまったことが明かされる瞬間の衝撃は、静かでありながら強烈だ。会話中心で読みやすく、都市伝説的な怪奇性と深い哲学性が絶妙に融合した作品である。
<i>τ</i> 6	ななめごはん。	inconnu	一般審査員F	17	17	17	17	17		ある時突然、親しくしていた人物がいなくなる。そして、その人物のこと自分しか知らず、自分の記憶の中だけにあって、他の誰に聞いてもそんな、物は知らない、と言われる。体験談として語られる話でもこういった話はちょくちょく耳にするけれど、いざ自分が同じ体験をしたらと思うとかなり怖い。イマジナリーフレンド的なものだったとしたら、まだ救いがあるけれど、自分が次に皆の記憶から消えてなくなってしまう予兆なのだとしたら果たしてそんな事を受け入れられるだろうか。この話で怖いところ
7°	ななめごはん。	inconnu	一般審査員G	10	13	18	18	9		たら果たしてそんな事を受け入れられるだろうか。この話で怖いところは、話をした保條と一番親しかったのは秋山ではなく、聞かされた俺、主さんが実は秋山と一番親しかったという事実。そして、最後は自分が今まで目の前で会話していたはずの保條が最初から存在していなかったように消えてしまうところだろう。評価としては、どの項目も平均的にそこそこ良かったです。 雰囲気が良い、オカルトホラーと言うよりかなり哲学的な印象に残るお話
, o	_ 。必ごばん。	ouiiild	w番查員G	10	13	18	18	9		でした。文章の好き嫌いは結構分かれるかなと思います。私は嫌いではないですが、読むのに少し体力が要る感じがありました。死とはなんなのか、死んだらどうなるのか、海の底には何があるのか、みたいな大きなスケールのものを考えると怖くなる現象に近いものを覚えます。人によっては結トラウマ的な怖さにもなってしまうかもしれません。それだけに、お話自体も好き嫌いが分かれるお話だなと思いました。個人的には好きな方です。
76	ななめごはん。	inconnu	一般審査員H	10	12	11	10	10	53	体も好き嫌いが分かれるお話だなと思いました。個人的には好きな方です。 文章に雰囲気があることも相まって、お話の内容にブレがなく、終わり方に 綺麗だなと思いました。 うーん。怪奇というにはちょっと。ややファンタジー寄りと言いますか。 怖さ、先ずそもそも怖くは無いです。自分の中では確実に存在していたは の人間が、忽然と消え、周りの人達は一切消えた人物の事を知らない、と いう話はよく使われる手法ですし、何か秋山が実在していた痕跡なり、消
										えた原因を仄めかすなり、何か山場が無いと難しいと思います。鋭さ、主、公と保條のやり取りに緊迫感があり、その点で鋭さを感じました。新しさ、ここもあまり感じられませんでした。最後には保條も消えてしまう、と言うのも中盤辺りから分かってしまいますし。ユーモア、も特には。もと読み手に痛烈な何かを突きつける要素があると良いのかもしれません。意外さ、も感じられませんでした。あと、般若心経や、死神の話、上手く
76	ななめごはん。	inconnu	一般審査員Ⅰ	14	13	13	13	14	67	用していない気がしました。あとタイトルも、です。少し欲張り過ぎだとりじます。 おもしろかった。よくありがちな、本文中にもあったあれかと思ったら、それが目の前で起こった。起こったのか?そもそもいなかったのか?昔、んだ友達を誰も覚えてない系の話、大好きです。でも、実際にそれがリアクイムで起こったら、やっぱり泣きそうになるだろうな。めちゃくちゃり
	ななめごはん。	inconnu	一般審査員J	139	140	147	147	137	72	アルで面白かったです。 謎が多いお話で、本当に見えていた話なのか見えなくなってしまった人物 話なのかとても興味深かった。そういう意味では、非常に面白いお話だった
lo 78	投稿者 森本 凛	タイトル 君はだれ?	評価者 一般審査員A	怖さ 17	鋭さ 20	新しさ 18	ユーモアさ 18	意外さ 18		書評 とてもシンプルだが、いい話。私はこの手の話に弱い。 真相が明かされるまでは、「どういう話になるんだろう?」という不安もあるので、怖さが犠牲になりすぎていないところも、ポイントが高い。先月の短編にも、幽霊が本懐を遂げる系の話があったと思うのだが、長編でやるとこんな感じなんだ、という感想を抱いた。結構よくあるテンプレートだから、このコントでも多そうなものだが、そんなに多くない。ありきたりなテンプ
78	森本 凛	君はだれ?	一般審査員B	13	12	14	12	13		テストでも多そうなものだが、そんなに多くない。ありきたりなテンプレートだと思わずに、どんどん書いてほしい。最終的に怪談を成功に導くのは、「語りの上手さ」だから。「私」と美咲がまた会えるといいな。また会えますように。 話し自体は良かったんですが設定なな無理なところがあったのが残念でした。山田美咲って言う名前かぶりぐらいはないこともないかなと思うんで
78	森本 凛	君はだれ?	一般審査員C	13	15	15	15	15		すが管理人が702号室は空き部屋なのに住人を電話で呼ぶのは流石に無理がと思います。管理人が居なくて自分でインターフォンを押したのなら良かたんですがひとつそんな感じだと話の設定に無理がかかって台無しになるのでこれからは注意したいですね。 素敵なお話ですね。読み終えたあと、心が温まりました。怖さはあまりありませんが、この不思議な感じと主人公の優しい感情がとても心地よいで
	太十 …	D								す。使用されている単語もわかりやすく、スラスラと読めるのが良かったす。大前提として主人公が702号室の山田さんが本来なら教えるべき相手ではないことに気付いてはいけないわけですが、全くの同姓同名というのは少しリアリティがなかったです。無理がないよう一般的な名前にしたのだは思いますが。一文字違いくらいに設定した方が(山田美穂さん、等)さらに良かったのではないでしょうか。
	森本 凛	君はだれ?	一般審査員D							ホラー展開からの感動展開で少し切ない気持ちになりましたが、とてもいいお話でした。すべて幻だったというわけではなく、過去からの手紙が残っているというのが大きなポイントだと思いました。様々な要素が組み合わさって、この方が家庭教師としてマンションに足を運ぶことになったも何かに導かれていたのではないかと思わせてしまう流れがよくできていると思いました。
78	森本 凛	君はだれ?	一般審査員E	13	12	12	15	13		702号室で起こる不思議な現象や、美咲との一ヶ月間の授業には、切なさと 温かさが強く感じられました。怖さは控えめながらも、幽霊との交流や予 想外の展開には引き込まれます。個人的には、もう一段階怖さを加える展 があれば、より緊張感が増して物語として印象深くなったと感じました。 それでも、現実と幻想の境界が曖昧になる描写や、美咲との絆の丁寧な描 方は非常に魅力的で、読後には怖さだけでなく心に残る温かさも味わえる
78	森本 凛	君はだれ?	一般審査員F	17	17	18	17	18		品でした。幻想的でありながらも、読者に深い共感を呼び起こす完成度の高い一作です。 お話、とても興味深く、面白く読ませていただきました。家庭教師って、となく憧れがあったりします。自分も子供の頃、家庭が裕福であれば家庭師に教えて貰いたかったなぁ、なんて思ったりします。まあ、そんな話はておき、田村さんが家庭教師の登録をし、依頼が入ったところで向かった
										マンションの一室。702号室が山田美咲という中二の少女とその母親の暮らす住居。週2回、1ヶ月に渡って授業をし、美咲も成績があがったと喜んでいた。ところが、本当の依頼者が別におり、実は802号室の住人だったー。ミステリーですね。こういうお話大好きです。田村さんは過去、702号室に住んでいて、事故で亡くなった山田美咲という少女に勉強を教えていた、と。山田美咲という名前も、まあ、よくあるといえばありそうですから、本来の依頼者の山田さん達も亡くなった美咲さんに喚ばれた可能性はあり
	森本 凛	君はだれ?	一般審査員G	10	5	8	10	5		本来の依頼者の山田さん達も亡くなった美咲さんに喚ばれた可能性はありますよね。念が引き寄せたちょっと怖いけれどいいお話でした。 なんとも切ないお話なのですが、ちょっと気になる点があり、そこが引っかかってしまってお話が頭に入りにくくなってしまいました。気になった点というのは、マンションの管理人についてです。管理人がわざわざ空室「連絡を取り、案内するのでしょうか?また、それも怪奇現象のうちという
78										とであるならば、ちょっと力技すぎるような気がします。管理人が過去にすがあったか伝えてくれる役割なのは解りますが、お話の中でその人物の辻褄が合わなくてはその役目も果たせません。例えばもっとよくある展開で、インターホンで直接訪問→実は間違えて訪問していたと発覚→謎は世話好きの近隣住民が話して解決、のような流れの方がわかりやすいかと思います。この管理人の不自然さが無ければ、全体的にお話もまとまっていて、ないけど優しい怪談として評価ももっと上がったかと思います。
78	森本 凛	君はだれ?	一般審査員H	9	10	10	8	11		ノスタルジックと言う感じでしょうか。少なくとも怖くは無いですね。怪 奇という観点からみるとこの評価となりました。鋭さ、主人公の心理描写 や、状況説明など上手いとは思うんですが、ゾクっとする展開が無いため、鋭さも感じません。新しさ、家庭教師として訪れた先の住人が実は、、としう点では新しさもありますが、まず、生きていると思っていた人が実は既
			一般審査員Ⅰ	13	12	13	12	12		亡くなっていた、これはよくあるパターンなので、高評価はつけられませんでした。ユーモアさ、ここもほぼ感じ取れません。もう少し美咲のキャラターを明確に書いてみても良かった気がします。意外さ、うーん。種明かりの段階が早い気がします。それだけに、嗚呼、やっぱりこういうオチになるのな、という印象が拭えません。 怖いというより不思議なお話で、でもいいお話でもありました。美咲ちゃん。たまたま同姓同名で一階違いで。本当に勉強が好きな子だったんだね。
78	森本 凛	君はだれ?					14	17	77	ん。たまたま同姓同名で一階違いで。本当に勉強が好きな子だったんだね。 家庭教師に来てもらえてよかったね。とニコニコしちゃうような話でした。家庭教師が嫌で逃げてた中学の頃の自分に読ませたいお話(笑)